

平成 26 年度

「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」共同利用・共同研究 個人型共同利用の成果報告書

研究課題名：ウェブと反体制—1960—70年代ソ連における反体制運動と現在—

中野幸男

今回の共同利用では2014年12月18日から20日と、2015年3月6日から7日までの二回利用させてもらった。「ウェブと反体制—1960—70年代ソ連における反体制運動と現在—」というテーマの研究に関連して、一回目の滞在では12月18日にユーラシア表象研究会に参加して、2014年12月4-5日にロシア・ペンザの学会で欠席発表した論文「インターネットと60年代反体制運動：LiveJournalのナターリア・ゴルバネフスカヤ」を日本語で紹介した。また12月19日にはSlavica Hierosolymitanaなどの雑誌や、チャヤーノフを中心としたロシア・ユートピア文学に関する資料の収集やオンラインで見ることのできないХроника текущих событийの原本を参照するなどの作業を行った。二回目の滞在では、デイヴィッド・ウルフ教授によるハルビンについての講演会を聴講し、またフランスの亡命ポーランド出版社 Instytut Literacki やその中心人物の Jerzy Giedroyc に関する資料を収集した。インターネットに関する直接関連する研究成果は前述のゴルバネフスカヤとLiveJournal論のみだが、その後のインターネットと自意識、写真などのメディアを通じたselfieなどの現象についての研究は翌年度のテーマである「インターネットと自画像」に継続することになった。北海道を訪れたのが年末年始だったこともあり、結果的にそれまでの研究の発表と今後の研究のための資料収集の機会になってしまった。亡命文学に関連して聴講したハルビンについての講義に関しては、近年中国の学会に参加する機会が増えたため、中国の亡命ロシア文学史の中のハルビン研究などに関連して深めていきたい。また、1960年代の亡命文学に関連して、2015年2月14日に東京の学士会館で行われた国際ワークショップ「ソ連崩壊と歴史ファンタジー文学の可能性」での発表「ソヴィエト文明に『おやすみなさい』：作家シニャフスキーのフランス講義」や2015年3月20日に早稲田大学で行われた2014年日本スラヴ学研究会研究発表会にて「フランスの亡命ポーランド雑誌KulturaとJerzy Giedroyc」という発表を行った。最後に、今回の滞在中にお世話になった北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの事務室の原田千里さんと他の職員の方々、及び資料検索で手伝っていただいた図書館の方々に感謝します。